

論文内容の要旨

報告番号		氏名	恵川 淳二
Effects of anesthetics on early postoperative cognitive outcome and intraoperative cerebral oxygen balance in patients undergoing lung surgery: a randomized clinical trial			
(和訳) 肺外科手術における術後早期の高次脳機能および術中脳酸素需給バランスに対する麻酔薬の効果:ランダム化比較試験			

論文内容の要旨

- 【背景】 肺外科手術において必要とされる分離肺換気は、脳の酸素需給バランスを障害し、術後高次脳機能障害(POCD)を引き起こす可能性がある。肺外科手術において、どの麻酔薬が POCD の発生率に影響を及ぼすかは未だ解明されていない。そこで、我々は肺外科手術において全身麻酔薬として頻用されているプロポフォールとセボフルランという2つの麻酔薬使用時の POCD の発生率を検討した。また、脳の酸素飽和度の低下の頻度が両麻酔薬で差があるかについても検討した。
- 【方法】 奈良県立医科大学の倫理委員会でプロトコール承認を得たのち、患者からインフォームドコンセントを通じて同意の得られた148名の患者が試験に組み込まれ、無作為にプロポフォール麻酔群とセボフルラン麻酔群に割り当てられた。術中に脳酸素局所飽和度(rSO_2)と内頸静脈球部血酸素飽和度(SjO_2)の測定を行った。脳酸素飽和度の低下は、 rSO_2 もしくは SjO_2 の絶対値が50%未満になった場合、または rSO_2 が麻酔前の80%未満に低下した時と定義した。高次脳機能検査は7つの検査項目で評価し、手術2日前にコントロールの検査をおこない、術後5日目および術後3ヶ月目に検査を行った。POCD は7項目の検査のうち2項目以上で 20%異常の低下がみられたものと定義した。
- 【結果】 術後5日目の POCD の発生はプロポフォール群で 16/72 人(22%)、セボフルラン群で 24/72 人(33%)であった。術後 3ヶ月目の POCD の発生はプロポフォール群で 9/60 人(15%)、セボフルラン群で 12/58 人(21%)であった。脳酸素飽和度の低下はプロポフォール、セボフルラン両群とも3例(4%)であった。多変量解析では、年齢が POCD の独立した予測因子であった。
- 【結語】 POCD の発生率は、統計学的には両麻酔薬で差を認めなかった。分離肺換気手術後の POCD は両麻酔薬ともに比較的高い頻度で発生していた。